

里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	(地域レベルでの取組基盤の整備)協働と持続性確保のための枠組み・体制の整備
手法名	企業と地域住民の連携による土地活用 「鹿背山元気プロジェクト」
主体	(独)都市再生機構 関西文化学術研究都市事業本部
背景 (地域の課題)	けいはんな学研都市(関西文化学術研究都市)の木津北地区は、UR都市再生機構が土地を買収したが開発事業を中止した地区。新たな土地の活用が課題となり、木津北地区は自然環境の保全と里山の再生活用を行う方向になった。
手法/方策の詳細	<p>里山地域のまま保全・活用することとし、都市再生機構と地元の協働による保全活動を進めている。以下の三つのプロジェクトを実施している。</p> <p>①周辺の新住民の参加による里山再生活動 鹿背山倶楽部：新住民のリタイア層が主な中心。荒廃した里山の再生、放置竹林伐採、ビオトープづくり、竹炭焼き、道づくり、子どもエコクラブがビオトープづくりで連携、ボーイスカウトが野営訓練、伐採した竹で工作教室、親子体験。</p> <p>②農家等との協働による保全・活用 鹿背山元気プロジェクト：地元住民中心。アカマツ林再生、休憩スペース整備など、かつての管理手法に学びながら管理を行っており、地元の農家との活動相互交流も行っている。</p> <p>③里山オーナークラブ 里山愛好家に機構所有地内の一定区域を貸し出す。立木の伐採、原木を利用したキノコ栽培、クラブづくりなど。</p> <p>今後の展開として、鹿背山城跡の発掘調査、京大農場移転(数大学の共同利用拠点構想)活動エリアでの「産学官の連携」「新産業創出」「学研都市の更なる発展」、オオタカの営巣確認と営巣環境の維持保全等を進める。更に、里山環境の再生を通して、</p> <p>① 新たな実証フィールドとしての活用:竹の新たな価値創出、里山改善によるCO2排出削減など ② 耕作放棄地の新たな活用可能性検討:「農あるまちづくり」の実現など ③ CSR(企業の社会的責任)活動の実施 等により、地域資源を有効活用し、持続可能社会の実現に向け、学研都市にふさわしい新たなまちづくりを目指す。</p>
手法・技術的視点	かつてその土地を管理していた人々の協力を得、周辺の新住民の自然ふれあい活動へ欲求を活用し、活動内容を組み立てる。土地が確保できているのでアイデアを形にでき、活動が多様化し前進している。
	<div style="text-align: center;"> <h3>鹿背山のまちづくりで目指す方向性</h3> <p>【地域資源】 歴史: 叡仁京、鹿背山城跡、瓦窯遺跡 名産品: 鹿背山柿、タケノコ、茶など 景観: 木津川の流れ、鹿背山の姿 人: 周辺NT約6万人 機関: 京都大、同志社大 学研都市内研究所等約60社</p> <p>【学研都市】 サードステージプラン: 「持続可能社会」における新しいライフスタイルの創出、発信</p> <p>【求められる社会の方向性】 環境: CO2排出削減、省エネ、生物多様性保全 少子高齢化への対応、持続的な住民交流の場</p> <p>【企業等による取組み】 里山環境の再生を通じた、 ① 新たな実証フィールドとしての活用 ② 放棄耕作地の新たな活用可能性検討 ③ CSR(企業の社会的責任)実現の場</p> <p>「次世代型里山づくり」の実現</p> </div>
参考資料	里なび研修会in京都 (独)都市再生機構 関西文化学術研究都市事業本部 山村達也